

平成25年度採択プログラム 中間評価調査

博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [公表。ただし、項目13については非公表]

機関名	政策研究大学院大学	整理番号	U01
1. 全体責任者 (学長)	※共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、取りまとめを行っている大学(連合大学院によるものは基幹大学)の学長名に下線を引いてください。 (ふりがな) しらいし たかし 氏名・職名 白石 隆 (政策研究大学院大学)		
2. プログラム責任者	(ふりがな) そのべ てつし 氏名・職名 園部 哲史(政策研究大学院大学副学長)		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) そのべ てつし 氏名・職名 園部 哲史 (政策研究大学院大学副学長)		
4. 類型	U <オンリーワン型>		
5.	プログラム名称	グローバル秩序変容時代のリーダー養成プログラム	
	英語名称	Advanced Program for Global Leaders in the Changing World	
	副題		
6. 授与する博士学位分野・名称	Ph.D. in Advanced Policy Studies		
7. 主要分科	(①) (②) (③) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入		
	政治学、経済学、地域研究		
8. 主要細目	(① 政治学) (② 国際関係論) (③ 経済政策) ※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入		
	財政学・金融論、経済史、地域研究		
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	政策研究科政策専攻		
10. 共同教育課程を設置している場合の共同実施機関名			
11. 連合大学院として参画している場合の共同実施機関名			
12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)			

14. プログラム担当者の構成 計 32 名					
外国人の人数	7 人	[21.9 %]	女性の人数	4 人	[12.5 %]
プログラム実施大学に属する者の割合 [75.0 %]					
プログラム実施大学に属する者			24 人	プログラム実施大学以外に属する者	
そのうち、他大学等を経験したことのある者			24 人	そのうち、大学等以外に属する者	
15. プログラム担当者					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成27年度における役割)
(プログラム責任者) 園部 哲史	ソノベ テツシ		政策研究大学院大学・副学長	開発経済学・Ph.D.(経済学)	プログラムの統括、コーディネート、プログラム運営委員会委員、プログラムコミティー、エグゼクティブセミナー担当
(プログラムコーディネーター) 園部 哲史	ソノベ テツシ		政策研究大学院大学・副学長	開発経済学・Ph.D.(経済学)	プログラムの統括、コーディネート、プログラム運営委員会委員、プログラムコミティー、エグゼクティブセミナー担当
山本 吉宣	ヤマモト ヨシノブ		政策研究科政策専攻・客員教授	国際政治学・Ph.D.(政治学)	先進国政策課題クラスターのチュートリアル
原 洋之介	ハラ ヨウノスケ		政策研究科政策専攻・アカデミックフェロー・客員教授	農業経済学、経済発展論・農学博士	プログラム運営委員会委員、新興国政策課題クラスターのチュートリアル
堀江 正弘	ホリエ マサヒロ		政策研究科政策専攻・特別教授、グローバルリーダー育成センター所長	行政学・MPA(行政学)	プログラム運営委員会委員、プログラムコミティー、新興国政策課題クラスター・チュートリアル
恒川 恵市	ツネカワ ケイイチ		政策研究科政策専攻・特別教授	政治学・Ph.D.(政治学)	プログラム運営委員会委員、プログラムコミティー、新興国政策課題クラスターのチュートリアル
大塚 啓二郎	オオツカ ケイジロウ		神戸大学・特命教授	開発経済学・Ph.D.(経済学)	新興国政策課題クラスターおよび途上国政策課題クラスターのチュートリアル
有本 建男	アリモト タテオ		政策研究科政策専攻・教授	科学技術政策・修士(物理化学)	プログラムコミティー、グローバル政策課題クラスターのチュートリアル
今野 雅裕	コンノ マサヒロ		政策研究科・学長特別補佐・教授	教育政策、文化政策・文学士	プログラムコミティー
大田 弘子	オオタ ヒロコ		政策研究科政策専攻・教授	公共経済学、経済政策・社会学士	プログラムコミティー、先進国政策課題クラスターのチュートリアル
島崎 謙治	シマザキ ケンジ		政策研究科政策専攻・教授	社会保障法、医療政策論・Ph.D.(商学)	プログラムコミティー、新興国政策課題クラスターのチュートリアル
大辻 義弘	オオツジ ヨシヒロ		政策研究科政策専攻・客員教授	アジア経済論、多国籍企業投資動向・LLM(法学)	グローバル政策課題クラスターのチュートリアル
Munro Alistair	モンロー アリスティア		政策研究科政策専攻・教授	公共経済学、環境経済学・Ph.D.(経済学)	プログラムコミティー、グローバル政策課題クラスターのチュートリアル
黒澤 昌子	クロサワ マサコ		政策研究科政策専攻・教授	労働経済学、計量経済学・Ph.D.(経済学)	プログラムコミティー、方法論基礎講座の講義
増山 幹高	マサヤマ ミキタカ		政策研究科政策専攻・副学長・研究科長、スチューデントオフィス室長	日本政治、議会制度、計量分析・Ph.D.(政治学)	プログラム運営委員会委員、プログラムコミティー、先進国政策課題クラスターのチュートリアル
Estudillo Jonna P.	エステューディオ ジョナ		政策研究科政策専攻・教授	経済学・Ph.D.(経済学)	プログラムコミティー、途上国政策課題クラスターのチュートリアル
道下 徳成	ミチシタ ナルシゲ		政策研究科政策専攻・教授	安全保障、戦略研究・Ph.D.(国際関係学)	プログラム運営委員会委員、プログラムコミティー、方法論基礎講座の講義および先進国政策課題クラスターおよびグローバル政策課題クラスターのチュートリアル
角南 篤	スナミ アツシ		政策研究科政策専攻・副学長・教授	科学・産業技術政策論、公共政策論・Ph.D.(政治学)	プログラム運営委員会委員、プログラムコミティー、方法論基礎講座の講義および先進国政策課題クラスターのチュートリアル
Patarapong Intarakumnerd	パタラポン インタラクムナード		政策研究科政策専攻・教授	科学技術政策・Ph.D.(科学技術政策)	プログラムコミティー、方法論基礎講座の講義および新興国政策課題クラスターのチュートリアル
鬼丸 武士	オニマル タケシ		政策研究科政策専攻・客員准教授	アジア国際関係史、比較地域研究・博士(地域研究)	プログラム運営委員会委員、歴史基礎講座での講義、グローバル政策課題クラスターのチュートリアル
杉原 薫	スギハラ カオル		政策研究科政策専攻・特別教授	グローバル・ヒストリー、アジア経済史・博士(経済学)	プログラムコミティー、歴史基礎講座の講義およびグローバル政策課題クラスターのチュートリアル
武田 文男	タケダ フミオ		政策研究科政策専攻・教授	災害対策、危機管理・博士(情報学)	プログラムコミティー、グローバル政策課題クラスターのチュートリアル

16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数

本学位プログラムの過去3年間のリーディングプログラム応募学生数等について記入してください。

(各年度3月31日現在(ただし平成28年度は提出日現在))

		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度 * (今後の募集予定: 有・無)
プログラム募集定員数(実数)		-	12人	12人	12人
① 応募学生数	うち留学生数	-	145人 140人	158人 148人	人 人
	うち自大学出身者数	- (人)	17 (16人)	7 (5人)	人 (人)
	うち他大学出身者数	- (人)	128 (124人)	151 (143人)	人 (人)
	うち社会人学生数	- (人)	140 (137人)	152 (143人)	人 (人)
	うち女性数	- (人)	29 (27人)	27 (25人)	人 (人)
				12人	11人
② 合格者数	うち留学生数	-	11人	8人	人
	うち自大学出身者数	- (人)	2 (1人)	0 (0人)	人 (人)
	うち他大学出身者数	- (人)	10 (10人)	11 (8人)	人 (人)
	うち社会人学生数	- (人)	11 (11人)	11 (8人)	人 (人)
	うち女性数	- (人)	5 (4人)	3 (3人)	人 (人)
				12人	11人
③ ②のうち受講学生数	うち留学生数	-	11人	8人	人
	うち自大学出身者数	- (人)	2 (1人)	0 (0人)	人 (人)
	うち他大学出身者数	- (人)	10 (10人)	11 (8人)	人 (人)
	うち社会人学生数	- (人)	11 (11人)	11 (8人)	人 (人)
	うち女性数	- (人)	5 (4人)	3 (3人)	人 (人)
	プログラム合格倍率(①応募学生数/②合格者数) (小数点第三位を四捨五入)		0.00倍	12.08倍	14.36倍
充足率(合格者数/募集定員)		0.00%	100.00%	92.00%	0.00%

※留学生については、「うち留学生数」にカウントするとともに、うち自大学出身者数、うち他大学出身者数、うち社会人学生数、うち女性数の()に内数を記入してください。

※平成28年度*(今後の募集予定:有・無)については、平成28年度内に受講を開始する学生を募集予定の場合(秋入学等)は「有」に、募集予定がない場合は「無」に印を付けてください。また、有の場合は、プログラム募集定員数(実数)欄には募集予定人数を含めず、下記備考欄へ募集時期とともに記載してください。

※編入学生がいる場合は、年度ごとの内訳を備考欄に記入してください。

17. 学位プログラムの受講学生数・修了(予定)者数
各年度における本学位プログラムの受講学生数を記入してください。

①区分制及び一貫制博士課程

(各年度3月31日現在(ただし平成28年度は提出日現在))

学位プログラムの受講学生数等	平成25年度						平成26年度						平成27年度						平成28年度						平成29年度	平成30年度						
	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計								
平成25年度選抜	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0		
うち留学生数	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0		
うち自大学出身者数	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0		
うち他大学出身者数	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0		
うち社会人学生数	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0		
うち女性数	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0		
平成26年度選抜							12	0	0	0	0	12	0	5	7	0	0	12	0	3	9	0	0	12								
うち留学生数							11	0	0	0	0	11	0	5	6	0	0	11	0	3	8	0	0	11								
うち自大学出身者数							2	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2								
うち他大学出身者数							10	0	0	0	0	10	0	5	5	0	0	10	0	3	7	0	0	10								
うち社会人学生数							11	0	0	0	0	11	0	5	6	0	0	11	0	3	8	0	0	11								
うち女性数							5	0	0	0	0	5	0	3	2	0	0	5	0	1	4	0	0	5								
平成27年度選抜													11	0	0	0	0	11	11	0	0	0	0	11								
うち留学生数													8	0	0	0	0	8	8	0	0	0	0	8								
うち自大学出身者数													0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0								
うち他大学出身者数													11	0	0	0	0	11	11	0	0	0	0	11								
うち社会人学生数													11	0	0	0	0	11	11	0	0	0	0	11								
うち女性数													3	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	3								
平成28年度選抜																			-	-	-	-	-	0								
うち留学生数																			-	-	-	-	-	0								
うち自大学出身者数																			-	-	-	-	-	0								
うち他大学出身者数																			-	-	-	-	-	0								
うち社会人学生数																			-	-	-	-	-	0								
うち女性数																			-	-	-	-	-	0								
計	0	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	12	11	5	7	0	0	23	11	3	9	0	0	23								
うち留学生数																															19	
うち自大学出身者数																															2	
うち他大学出身者数																															21	
うち社会人学生数																															22	
うち女性数																															8	
修了者数(予定者を含む)																															0	0
就職者数																																
プログラム対象学生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数																															0	

※「16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数」と整合性を取ってください。
 ※「修了者数」の平成28、29、30年度については、修了予定者数を記入してください。
 ※「就職者数」にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む)のみをカウントしてください。
 ※辞退者(Q.E.によるものも含む)がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

17. 学位プログラムの受講学生数・修了(予定)者数
各年度における本学位プログラムの受講学生数を記入してください。

②医・歯・薬・獣医学の4年制博士課程

(各年度3月31日現在(ただし平成28年度は提出日現在))

学位プログラムの受講学生数等	平成25年度					平成26年度					平成27年度					平成28年度					平成29年度	平成30年度				
	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計						
平成25年度 選抜					0					0					0					0						
	うち留学生数				0					0					0					0						
	うち自大学出身者数				0					0					0					0						
	うち他大学出身者数				0					0					0					0						
	うち社会人学生数				0					0					0					0						
うち女性数				0					0					0					0							
平成26年度 選抜					0					0					0					0						
	うち留学生数				0					0					0					0						
	うち自大学出身者数				0					0					0					0						
	うち他大学出身者数				0					0					0					0						
	うち社会人学生数				0					0					0					0						
うち女性数				0					0					0					0							
平成27年度 選抜					0					0					0					0						
	うち留学生数				0					0					0					0						
	うち自大学出身者数				0					0					0					0						
	うち他大学出身者数				0					0					0					0						
	うち社会人学生数				0					0					0					0						
うち女性数				0					0					0					0							
平成28年度 選抜					0					0					0					0						
	うち留学生数				0					0					0					0						
	うち自大学出身者数				0					0					0					0						
	うち他大学出身者数				0					0					0					0						
	うち社会人学生数				0					0					0					0						
うち女性数				0					0					0					0							
計		0	0	0	0	0		0	0	0	0	0		0	0	0	0	0		0	0	0	0	0		
	うち留学生数																									
	うち自大学出身者数																									
	うち他大学出身者数																									
	うち社会人学生数																									
うち女性数																										
修了者数(予定者を含む)																										
就職者数																										
プログラム対象学生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数																										

※「16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数」と整合性を取ってください。
 ※「修了者数」の平成28、29、30年度については、修了予定者数を記入してください。
 ※「就職者数」にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む)のみをカウントしてください。
 ※辞退者(Q.E.によるものも含む)がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

<本プログラムの概要>

本学位プログラムでは、歴史や深い教養に裏打ちされた大局観を持ち、長期的かつ複眼的で幅広い視野からの確かな判断ができる能力を有し、新しい世界秩序・地域秩序の形成に参画する意思と能力を併せ持った、国家・国際機関・産業界などの各界で指導的な役割を果たしうるトップリーダー(Leader of Leaders)を養成する。

世界は今、大きな変化と深刻な危機に直面している。これは、グローバル化の進展や新興国の台頭等による世界的な富と力の分布の変化、根源的な価値観や利害の対立、既存のグローバル・ガバナンスの仕組みやルール機能不全などに起因する。その結果、金融危機やテロ、エネルギー問題、環境問題等の諸問題を従来の枠組みや手段では解決できなくなっている。これらの危機や問題を根本的に解決し、新たな時代を切り開くためには、(1)偏狭な価値観や歴史観を超克し、直面する諸課題を過去から未来へとつなげる時間軸の中に位置づけ、様々な角度から検討することで問題の本質を見抜く大局観を持ち、(2)個々の課題に実効性ある処方箋を提示することができる課題分析能力と、(3)さらには自己の見解を言語や文化、歴史、宗教、民族、国籍などの違いを越えてより多くの人に分かりやすく伝えることができるコミュニケーション能力を兼ね備えた人材が不可欠である。このような人材は専門家養成に重点を置いた、従来の人材育成の在り方では育てることは出来ない。

このような問題意識を基に、本学は、これまでの政策領域における人材養成の豊富な実績を踏まえ、新たな学位プログラムを開発する。このプログラムでは、これまで日本では重視されてこなかった歴史や教養を基礎に据え、学生の「物の見方(perspective)」を徹底的に鍛え上げる。これにより、特定の分野に特化した専門家ではなく、多くの分野を架橋して、新しい国内・国際秩序形成に指導的な役割を果たすことができる各界のトップリーダーを養成することを目的とする。さらに、本学位プログラムで開発する 新しいトップリーダー養成モデル を国際的に発信し、この分野で世界的にもオンリーワンの大学院となることを目指す。

<特色・優位性>

- ▶ 国内外から学生を受け入れ、特に実務経験のあるミッドキャリアのプロフェッショナルを政・財・官等で活躍できるトップリーダーとして養成する。
- ▶ カリキュラムはすべて英語で提供し、日本人学生と留学生とが共に学び、国籍、文化、専門を超えて競争し協力できる能力を涵養する。
- ▶ トップリーダーとして必要な大局観、課題分析能力、コミュニケーション能力をバランスよく養成できるカリキュラムを提供する(歴史や教養の重視、少人数のチュートリアル必修化等)。また、論文のみならず、課題対応力審査委員会等、大局観についても適切に評価する仕組みを導入し、学位の質を保証する。
- ▶ 危機管理対応時に必要とされる判断力やリスクコミュニケーション能力等を、実践に即したシミュレーション等を通じて養成する。
- ▶ 実際に危機管理をおこなった経験を有する政・財・官・学の各界の指導者を国内外から招いて基礎講座やエグゼクティブ・セミナー等で講師を務めてもらい、その経験からリーダーとしての資質と教養を身に付けさせる。
- ▶ トップリーダーとして活躍するための財産となる、教員や有識者、学生間のネットワークを形成することができる。

なお、本学では日本人学生と外国人学生の比率はすでに1対2となっており、海外からは、特に新興国、発展途上国から、毎年、多くの優秀な学生を受け入れている。学生の圧倒的多数はミッドキャリアの行政官で、修了生の中には、自国、あるいは国際機関で、すでに次官、局長等、幹部となっている者も少なくない。本学位プログラムでは、本学のこれまでの人材養成の経験や培った人脈を最大限活用し、対象を行政官に限らず政・財界等にも広げ、時代が必要とする新しい資質を有する人材を養成するカリキュラムを構築、実施する。

学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)

グローバル秩序変容時代のリーダー養成プログラム

